



税がもたらす医療の光

大田区立大森東中学校 三年 櫛村 優衣

近年、日本の医療は目覚ましい発展を遂げた。救うことのできなかった命も救うことができるようになった。ここまで高度な技術や品質を追求できた背景はどうなっているのだろうか。

中学二年生の夏、幼かった私に裁縫を覚えてくれた大好きな祖母が認知症を患ったと聞かされた。当時の私は、その病気についてあまりにも知らないことが多かったのだと思う。父の仕事の都合上、祖母は私たちとは遠く離れた地方の県に祖父と二人で暮らしていた。そのため、祖母のお見舞いは年に数回しかできず、様子を見る機会も少なかった。だからせめて、認知症はどんな病気かで、治療は可能なのかを調べていた矢先、日本の医療と税金の関わりについて知ったのだ。

今現在、日本国の支出の約三分の一を占めているのが「社会保障」というものである。社会保障とは、簡潔にいうと、私たち国民が安心していくために必要な公的サービスのことを指すものであり、具体的には「医療」「年金」「介護」「福祉」などがある。日本では、これらのサービスを「税金」を介して提供しているのだ。更に詳しく言うならば、「国民皆保険制度」というものである。この制度は、全ての人が公的医療保険に加入し、全員が保険料を支払うこととお互いの負担を軽減するというも

ので、これによって私の祖母も定められた負担割合で医療を受けることができるのである。だが、これは必ずしも当たり前ではない。例えばアメリカは、公的医療保険は主に二つのみであり、日本のように国民全員が加入していないため、負担額も一定ではない。そのため、自分か周囲の人が重篤な病を患おうおもなら、その負担額は目を疑うものになってしまうのである。その点、日本では、比較的安価でレベルの高い技術を平等に享受することができる。これは世界的に見ても高水準であり、日本の誇るべき技術とも言えるだろう。

私は税金と医療について詳しく述べたが、先ほど例に挙げた、「年金」「介護」「福祉」なども同様であり、いずれも税金によって、国民の豊かで安心した暮らしを守ってくれている制度なのである。税の制度があることで助けられる人が救われる命だっているのだ。そう考えると、私たちにとって当たり前だった迅速かつ丁寧な傷の処置や適切な薬の処方、国民が払う税金によって補助されており、国の公的サービスの運営に欠かせない要素なのだと思った。

「税金」と聞くと、どことなくマイナスなイメージを持つ人は少なくないのではないだろうか。だがそれは、言い換えれば一種の固定観念であり、その奥に隠された価値が目的に視点を移してみてはどうだろうか。税とは、私たちが日々の生活を健康で安心なものにするためにある、国民の財産なのだ。